

馬詰研究奨励賞海外研修等実施報告書

令和 06 年 12 月 02 日

工 学 研 究 科 長 殿

所 属： 原子核工学 専攻
課 程： 博士後期課程 3 回生
氏 名： 野尻摩依

研修の目的	研修者の研究内容である「ホウ素中性子捕捉療法用の線量計算アルゴリズムの開発」は、他の放射線治療や原子炉施設で用いられる手法や用途を考慮して進められてきた。本研修では、それらに知識を持つ研究者との議論や見学を通じて、関連する情報を収集することを目的とした。		
研修の期間	2024 年 11 月 21 日～2024 年 11 月 29 日		
研修の実施先	日程	滞在地	研修実施機関名等（指導教員名）
	11/21 - 11/22	シドニー（オーストラリア）	ウーロンゴン大学、オーストラリア原子力科学技術機構
	11/22 - 11/29	キャンベラ（オーストラリア）	キャンベラ病院（Ben Cooper 博士）
研修の概要	ウーロンゴン大学では、放射線検出器として用いられている装置等の見学と、研修者の研究内容を共有し、議論した。また、オーストラリア原子力科学技術機構では、施設の見学と、放射線検出器や放射線治療に係る研究の情報収集を行った。キャンベラ病院では、放射線治療、放射線診断に係る臨床業務を見学し、研修者の研究内容を共有し議論した。		
研修の成果等	見学や議論を通して、研修者の研究内容に関わる新たな知識や視点、臨床応用に向けた指針を得た。一例として、現在はホウ素中性子捕捉療法に取り入れられていないものの、導入される可能性がある「独立検証」のプロセスを見学した。X線治療では、治療計画装置と異なるアルゴリズムの使用も推奨される。独立検証のプロセスも見学し、深く理解できたため、用途の幅を広げて研究を発展させることができると考える。		
その他 ※本海外研修経験による将来の抱負等	見学や、他の研究者との議論を通じて得られた知識や視点を踏まえて、研究の幅を広げていき、ホウ素中性子捕捉療法や医学物理学分野の面から社会に大きく貢献できる研究者を目指したい。		